

「働き方改革通信：Smile」は、“先生の Happy が子どもの笑顔をつくる”を取組姿勢とした「横浜市立学校 教職員の働き方改革プラン」の進捗（達成目標の現状等）や各学校での取組を共有し、更なる取組の推進・充実につなげるために発行しています。

Topic

働き方改革を支える！横浜市教育委員会の取組

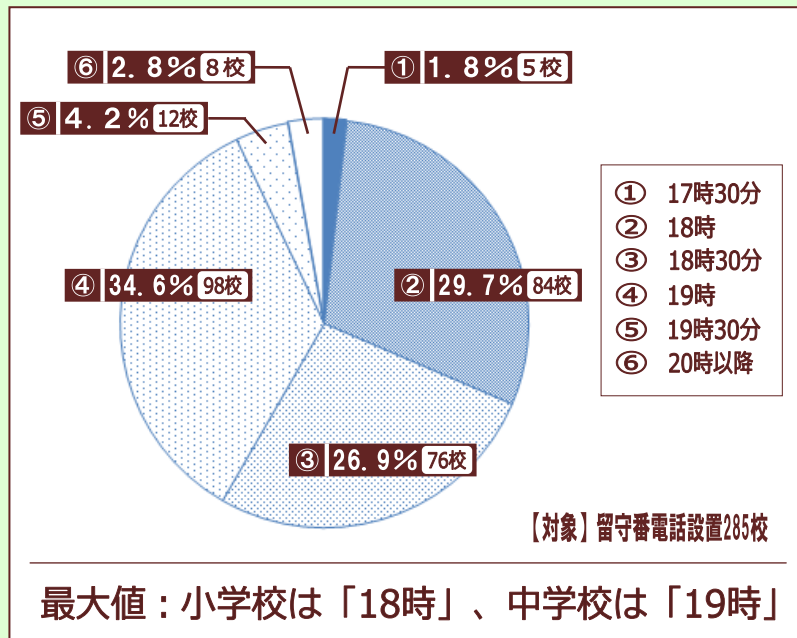
①-1

報告 平日の留守番電話の設置状況（2018年夏）

戦略2-（1）-① P.19

前号「働き方改革通信 No.4」に引き続き、留守番電話に関する調査結果を報告します。今回は、設定開始時刻です。校種別に見ると、やはり部活動のある中学校の設定開始時刻が遅いようです。また、様々な事情から設定できていない学校もあります。調査の際にうかがった、未設定の背景を紹介します。

【調査報告③】留守番電話「設定開始」時刻：6月末日現在



今後 設定する予定の学校の声

- 留守番電話の設定について、学校運営協議会で話題にした。委員からは、「留守番電話の導入は結構だが、留守といいながら夜遅くまで明かりのついている勤務状況をどうにかすることを考えるべきだ。」と指摘されている。(小)
- 併設型小中一貫校のため、先に導入をした小学校と足並みを揃える形で、夏休み後に設置する予定である。(中)
- 導入による効果、地域との確認などを検討の上、導入する予定だ。(中)
- 設定や解除がしやすい方法がないか、業者に相談し、見積もりをだしてもらった。(中)

今年から 留守番電話 始めました！



一本松小学校の場合

今年度から平日の留守番電話設定を始めた学校は 130 校にのぼります。その内訳は・・・

小学校 115校 **中学校 14校** **特別支援学校 1校** ▶ **合計 130校**

そのうちの1校、一本松小学校の副校長先生とPTA 会長に、その状況や思いを聞いてみました。



副校長先生の声

正直、平日に留守番電話対応とすることに不安はありました。でも、先生たちの働く様子を見るにつけ、保護者や地域の方のご理解とご協力も必要だと考えるようになりました。

私自身も、18 時以降は電話を受けることもなくなり、仕事に集中できるようになりました。また、僅かではありますが、昨年度より早く帰ることができるようになりました。



PTA会長の声

学校の電気が遅くまで点いていることは知っていました。先生方の熱心な姿を普段から見ていましたので、校長先生から話があった時には、少しでも力になればと協力させていただこうと思いました。学校は“24 時間対応”ではないという意識改革が必要です。そして、こういったことをきっかけに、学校と保護者の相互理解や連携を深めていきたいです。

「教職員の働き方改革プラン」の40の取組の冒頭に掲げられているのが「総合学校支援システム」の構築です。システム構築に向け、コンサルティング会社とともに、学校現場の意見（アンケート：41校、個別ヒアリング：11校）を聞きながら、4月から計8回に渡り、検討を重ねてきました。



アンケート等から見てきた課題（現場の声：抜粋）

- 校内だけでなく、横浜の研究会の様々な教材等を一元的に管理できれば、授業準備のしやすさと授業の質の向上につながる。
- いつでもどこでも（自宅・スマホ等）研修が受けられるといい。
- やはり理想は、自宅でも学校と同じ環境で仕事ができるとうれしい。このテレワークを実現している自治体もあると聞く。
- 同じデータを扱うシステム同士の連携が自動でできるといい。
- 校務システムで成績や健康診断情報などが、小中で引き継げるといい。この部分でも“小中一貫”を！

システム導入に向け、厳しい予算の壁と戦い、選択と集中を図りながら、教職員のHappyにつながるよう、検討を続けていきます。続報にご期待ください！！

横浜市立学校業務実態調査（H25）からも、長時間勤務が明らかになった副校長先生ですが、多くの教職員の働き方改革に関する本を執筆している、妹尾昌俊氏を招き研修会を開きました。例年以上の参加者数だったようで、関心の高さがうかがえます。参加した副校長先生の声を紹介します。



平成30年度横浜市小学校副校長会第1回研修会

本気で進める働き方改革と副校長の役割



2018年7月17日

妹尾 昌俊

教育研究家、学校マネジメントコンサルタント
文部科学省「学校業務実態調査アドバイザー」
「本気で進める働き方改革」著者
NPO法人小中連携推進委員会 理事
senoom379@gmail.com
http://senoom.haleblo.jp



私も4歳と9歳の子供がいますが、「先生になりたい！」と言われても、「やめた方がいいんじゃない」と言ってしまう。やりがいはあるけれど、人に勧められない仕事になっていると思います。具体的な策を考えて実践していきたいです。

現任校に4月に着任して以来、「どげんかせんといかん」と毎日思っています。改善したいけど、何から？ どうしたら？ そんなことで遅々として進んでいない現状ですが、今日、お話を伺って、意識改革から進めていけそうな気がしています。

「生産性＝時間対効果」という発想には目が覚める思いでした。職業柄なのか、様々な行事などに対して、思い入れがある自分に気づきました。ゼロベースで考え直していかなければいけないと、思いを新たにしました。

口だけで働き方改革を!! と言ってもダメだと分かっていましたが、職員の命を守る!! という重要なことととらえ、慣例にとらわれずに、弱者の立場を考えられる自分になりたいと思います。小さなことで何か実践したいという思いも持てました。



「100校集まるかなあ…」 → 「なんと24時間で100校!!」

7月11日に募集をかけた「電子申請システム活用モデル校」ですが、あっという間に締切に。学校の紙文化を変えるかもしれないこのシステム！ 新規ご相談は教育政策推進課まで。

(1) 「教職員の働き方改革プラン」達成目標との比較・推移 (平成30年8月6日時点)

項目	目標	平成30年7月実績			
		平均	小学校	中学校	特別支援学校
時間外勤務月80時間超の教職員の割合	0%	12.8% 😊 前月比 -9.4	2.7% 😊 前月比 -10.9	36.2% 😊 前月比 -7.9	0.2% 😊 前月比 -1.8
19時までに退勤する教職員の割合	70%以上	75.2% 😊 前月比 +10.5	75.0% 😊 前月比 +12.8	72.6% 😊 前月比 +7.3	90.4% 😊 前月比 +6.3

※退勤管理を導入した小・中・義務・特支の教員について、ICカード等による記録から機械的に算出した集計結果。(以下、同様)



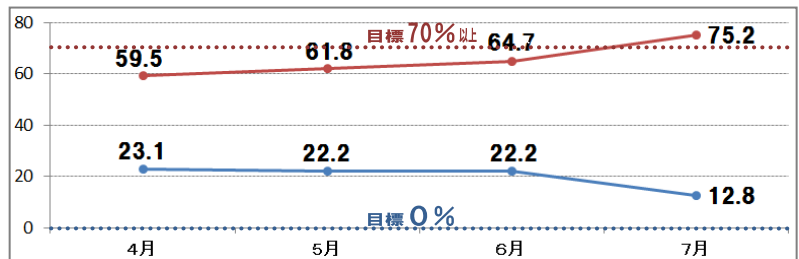
「19時までに退勤する教職員の割合」が全ての校種で目標値の「70%以上」を越えました。「時間外勤務80時間超」も、最も低い数値となりましたが、その人数2000人強！これも現実です…。

達成目標に対する現状値

二つの目標ともに、これまでで最も良い値となりました。やはり夏季休業の影響は大きいですね。

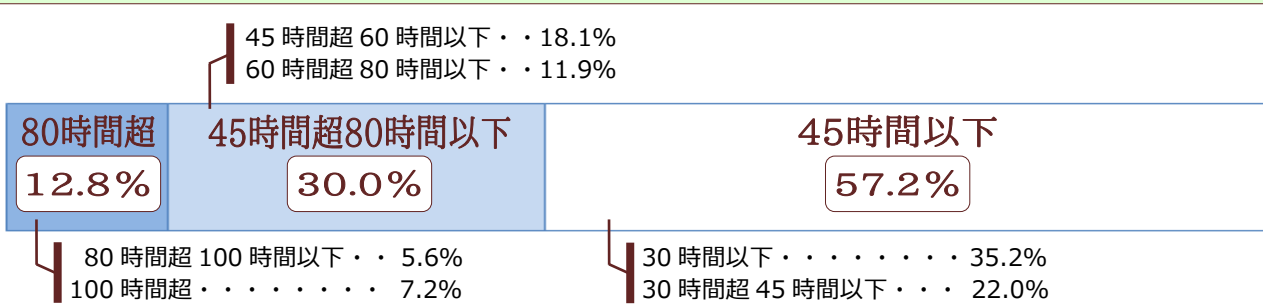
青線 時間外勤務月80時間超の教職員の割合

赤線 19時までに退勤する教職員の割合



(2) 時間外勤務 (平成30年7月) の詳細

◇時間外勤務の割合 (平均)



◇時間外勤務の割合 (校種別割合)

月あたり時間外勤務	100時間超	80時間超100時間以下	小計 (80時間超)	60時間超80時間以下	45時間超60時間以下	小計 (45時間以下)	30時間超45時間以下	30時間以下
小学校	0.4%	2.3%	2.7%	11.1%	21.5%	64.6%	27.3%	37.4%
中学校	22.8%	13.5%	36.2%	15.8%	13.4%	34.6%	12.4%	22.2%
特別支援学校	0.0%	0.2%	0.2%	2.0%	6.5%	91.3%	16.5%	74.8%
平均	7.2%	5.6%	12.8%	11.9%	18.1%	57.2%	22.0%	35.2%



今月号の発出は、多くの学校が「学校閉庁日」の最中かと思います。他の自治体でも、「学校閉庁」の動きが広がってきていますが、その期間の長さは、横浜市が1、2を争います。さて、この夏休みを通し、「働き方改革プラン」に掲げた「年休10日取得」の状況はいかがでしょうか？

※本資料の数値については、項目ごとに四捨五入により端数処理を行っているため、合計と内訳の和とが一致しない場合があります。